

# 地元えびの市と協働する宮崎県立飯野高等学校グランドデザイン

- 地域創生の核として飯野高等学校と地域が連携し、地域をフィールドにした探究活動の学びを通して社会を地域から分厚く支える人材の育成を行う。
- えびの市、企業（事業者、商工会）、大学等と連携し、これまで行ってきた実践型地域課題解決学習による探究的な学びさらに深化させ、全国のモデルとなる教育活動を展開する。
- 地域をフィールドに学ぶことで地域の魅力に気づき、地域から活動する生徒を増加させ、域外へ出た後にも人材が還流するしくみを構築する。

## 地域で活躍するグローバルヒーローの育成

### 地域課題（社会課題）を自ら解決を図り実践できる力の養成

- ①他者と協働、主体性と企画力 ②創造的な判断を行い、自己表現に取り組む力 ③地域社会を理解し、変容する社会にも対応できる力
- ④インバウンドや海外からの移住を視野に外国語と異文化に関する理解を用いてコミュニケーションを図る力
- ⑤地域資源を生かすため様々な情報を分析・処理できる力 ⑥地域をデザインし、ICTを活用できる力

### 飯野高校

- 地域PBLのカリキュラム開発
- 校内組織の整備（学科・コース担当の配置）
- 地域総ぐるみで行う教科「地域学」のカリキュラム開発と実践
  - ・普通科総合コース（地域貢献活動）
    - ※地域の事業所で1年の実践を通して地域貢献
  - ・普通科探究コース（地域探究活動）
    - ※自ら考える地域課題についてその課題解決を図り実践
  - ・生活文化科（地域支援活動）
    - ※専門力を活かし、地域生活をデザインし、実践する活動

### 学校の枠を超えた地域魅力型の教育体制



### 魅力化コアチーム

- 探究活動における支援体制の整備
- 地域サポーター（客員教員）制度の構築
- カリキュラム開発における助言・支援
- 学校の枠を超えた日常的な活動支援

### 飯野高等学校魅力化の会

- 地域との連携体制の構築支援
- 教育プログラムの開発支援
- 地域コーディネーター配置
- 地域課題解決学習への支援
  - ・地元定着やUターン者の増
  - ・高校生の地域参画による活性化
  - ・社会を地域から支える人材育成
- 評価委員会の設置

### 宮崎県教育委員会

- 取組の支援、助言、伴走
- 研修センター事業等による他校への普及

ふりがな	みやざきけんきょういくいいんかい	ふりがな	みやざきけんりついいのこうとうがこう
管理機関名	宮崎県教育委員会	学校名	宮崎県立飯野高等学校

## 2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：宮崎県教育委員会

代表者名：日隈俊郎

#### (2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：宮崎県立飯野高等学校学科：普通科専門学科総合学科

校長名：押方修

### 2 取組内容

本校の教育活動は地域人材の育成を念頭に、学科、コースごとにすべての生徒が地域をフィールドにした活動を展開している。

普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
地域貢献活動 1年間の地域の事業所で実習活動を通して地域貢献の在り方を考える活動。	地域探究活動 自らが考える地域課題について地域と協働しながら解決を図る活動。	地域支援活動 地域における生活デザインを考え、家庭科系専門力活かして地域課題解決を図る活動。
それぞれの活動において、設定したテーマで提案・実践・振り返りを繰り返し行うことや地域住民をはじめ専門家との関わりながら活動を進めていくことで、学校生活にはない新たな視点を養うものとする。さらに様々な視点からの実践を積み重ねることで新たな価値を創造する力を身につける活動とする。		

このような活動は、すでに地域からも高い評価を受けており地域に新たな価値を創造する活動になりつつある。実際、生徒が提案した事業が市の支援を受けて事業化されたものもある。また、地域課題の解決を図るため海外へ足を運び新たな視点で活動する生徒も出ているなど、地域に根差した活動によって地域になくはならない高校となってきている。

このことから、現状の取り組みを深化させたカリキュラム開発を行ない、より実践的な学びを展開することで、生徒たちの学びの充実を図る。

本事業を通して地域の新たな価値を創造するグローバルヒーロー育成に取り組んでいく。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

##### 飯野高等学校を守り育てる市民の会

機関名	機関の代表者名
えびの市	市長 村岡隆明
えびの市議会	議長 上原康雄
飯野高校同窓会	会長 宮浦佳紀
えびの市教育委員会	教育長 永山新一
えびの市自治会連合会	会長 宮久保辰二
えびの市農業協同組合	組合長 小吹敏博
えびの市商工会	会長 白石昌彦
えびの市観光協会	会長 仁科博
えびの市地域婦人連絡協議会	会長 春口貞子

えびの市青年会議所	理事長 小東恵理子
えびの市子ども育成連絡協議会	会長 市来孝之
えびの市体育協会	会長 柳田和幸
えびの市社会福祉協議会	会長 瀬戸崎恵子
えびの市民生委員児童委員協議会	会長 上野憲昭
えびの市教育・保育施設園長会	代表 友清潤
えびの市青少年育成市民会議	会長 村岡隆明
えびの市高齢者クラブ連合会	会長 徳澄季喜
飯野高等学校 PTA	会長 宮久保政治
えびの市中学校校長会	会長 水保義雄
宮崎県議会	議員 中野一則
えびの市 PTA 連絡協議会	会長 平正人
宮崎県立飯野高等学校	校長 押方修

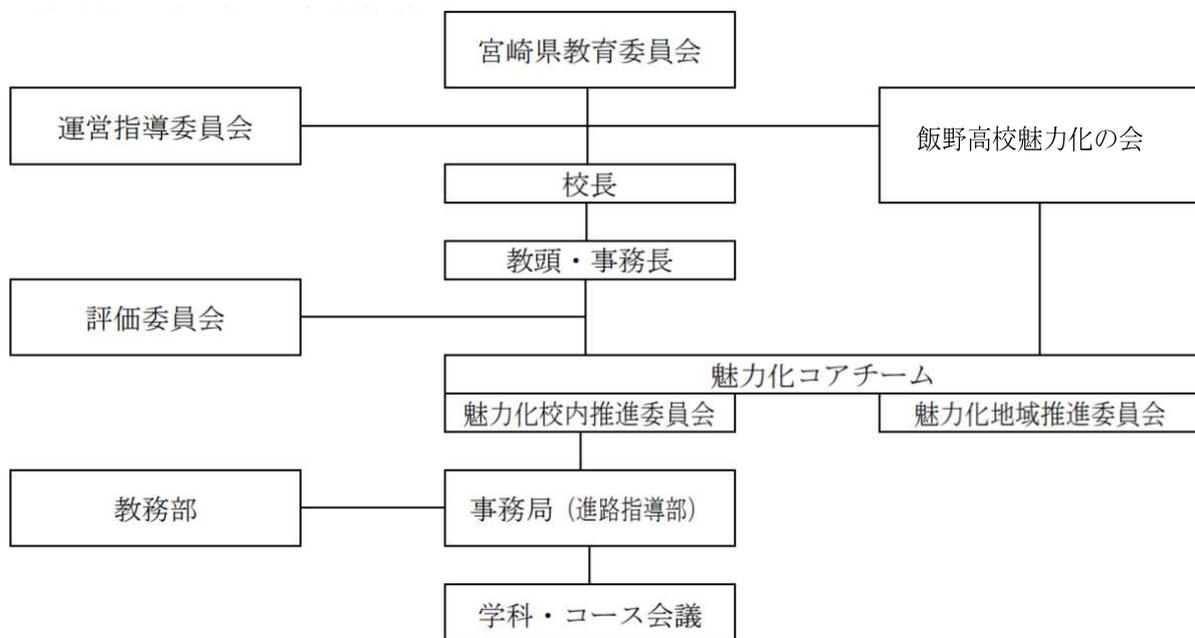
### 魅力化コアチーム

飯野高校教職員（魅力化校内推進委員会）	教諭 梅北瑞輝
VoiceGiftLilybell	代表 遠目塚文美
えびの市青年会議所	監事 阿野大道
明石酒造株式会社	専務 明石秀暢
大正大学地域創生学部	大学教員 山中昌幸
NPO法人ニシモロベース	代表理事 上水流秀明
えびの市地域おこし協力隊	鈴木尚洋
えびの市企画課	課長補佐 黒松裕貴
HANNAH	代表 村上大輔
(有)BEBUYA	代表 坂元一貴
宮崎大学地域資源創成学部	教授 根岸裕孝
宮崎大学地域資源創成学部	教授 丹生晃隆

### (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

コンソーシアムである飯野高校魅力化の会が主催する教師、コンソーシアム関係者、連携事業所関係者を一同に会した研修会（ワールド・カフェ等）を実施し、将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有化を図る。これを、毎年実施し、次代を担う地域リーダーを戦略的に育成する仕組みづくりを行う。また生徒と地域住民が対話を行う会なども市民団体と連携して実践する。

### (3) コンソーシアムにおける研究開発体制



#### (4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

提携する大学教員（大正大学地域創生学部山中昌幸氏）を専門家として配置する。

＜大正大学地域創生学部山中昌幸氏の経歴＞

1972年生まれ。大正大学文学部史学科卒業。

NPO法人日本起業家教育協会（現NPO法人JAE）を設立、理事長を経てファウンダー。

平成29年4月より、地域構想研究所プロジェクトファシリテーターに着任。

#### (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

魅力化コアチームに所属するVoiceGiftLilybell代表 遠目塚文美を支援員として配置する。

＜VoiceGiftLilybell代表 遠目塚文美氏の経歴＞

1974年生まれ。宮崎女子短期大学卒業。

2013年よりえびの市議会議員も務める傍ら、VoiceGiftLilybell代表として地域で様々な活動を行っている。えびの青年会議所理事長を務めた2016年以降、飯野高校と地域との連携について、当校の教育活動の支援にあたっている。

#### (6) 運営指導委員会の体制

事業全体の指導・助言に当たり、運営委員として以下の5名が内定している。

- ・学識経験者1名（宮崎国際大学：矢野健二氏）
- ・民間企業3名（明石酒造株式会社：明石秀人氏）  
（えびの電子株式会社：津曲洋一氏）  
（株式会社アイロード：福永栄子氏）
- ・市団体代表1名（えびの市団体連絡協議会：石坂乃里子氏）

#### (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- ・飯野高校が独自開催する「グローバル学習成果発表会」や県の事業である「ひむかハイスクールE x p o」や「キャリアフォーラム」での発表会を実施する。この他、すでに依頼の来ているものも含めて取り組みの研究成果を広める見地から県内外の大学、高校、地域団体における研修会で講演を行う。

また、カリキュラム開発等専門家や評価委員会から多面的・継続的に指導・助言を行い、カリキュラム内容をより高度なものに発展させる。

#### (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

##### ①人的支援

○指定校には、地域魅力化型事業の円滑かつ効果的な推進に資するよう、課題研究活動や探究活動の分野で実績のある職員の優先的な配置に努め、指導体制の確立やOJTによる人材育成を支援する。

○指定校の担当者が、校内における指導に注力できるよう、加配による常勤講師または非常勤講師の配置に努める。

##### ②情報支援

○高校教育課及び県教育研修センターの事業である「ひむかハイスクールE x p o」や「キャリアフォーラム」等の発表会を通して、指定校の活動を向上させる支援を行う。

##### ③物的支援

○指定校の関係職員が、「全国高等学校魅力化フォーラム」や「地域みらい留学フェスタ」等に参加するために必要な経費を支援する。

○指定校の担当及び高校教育課の指導主事等が、他県の先進校等に視察を行うために必要な旅費を支援する。

○指定校が、地域課題解決学習に取り組むために必要な消耗品等の費用として、需用費を一部支援する。

#### (9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

指定期間終了までに培った市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを維持、発展させていくために、本県単独事業の構築を検討する。平成 31 年度からの新規事業「県立高校を核としたまち・ひと・しごと創生推進事業」において、飯野高校がコミュニティスクールにモデル指定されることも踏まえながら、地域の力を活用した教育活動の展開、地域の安全・安心の協力体制の構築、高校生による地域課題解決アイデアの企画・実践など、地域課題解決学習モデルの研究を通して、地域振興に結びつく実践的な教育活動を地域と協働で展開していけるよう、地元えびの市と連携しながら支援していく。また、地域魅力化型事業における成果や課題を踏まえ、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組をさらに推進していくことにより、飯野高校が地域振興の核として本県の高等学校のモデルとなるよう機能強化を図っていく。

2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりついのこうとうがっこう				②所在都道府県	宮崎県
2019～2021	①学校名	宮崎県立飯野高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	えびの市唯一の県立高校として、普通科80名、生活文化科40名を募集し、現在242名が在籍している。	
	普通科	57	57	63			
生活文化科	27	17	21		65		
⑥研究開発構想名	地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践						
⑦研究開発の概要	市内唯一の県立高校である環境を活かして、地域総ぐるみの探究活動（地域課題解決学習）を柱に据え学科・コースの特徴を生かした学校設定科目を開発する。これにより、高校を核とした地域振興と新たな地域価値を創造する取り組みのモデルを考察・実践する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>地域をフィールドにした新たな学び（探究活動）から、地域課題を国内外の社会課題と絡めて課題意識や貢献意識を持ち、地域振興と新たな地域価値を創造するグローバル・ヒーローを育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校では、学科・コースごとにすべての生徒が地域で活動している。このことから、地域課題に関心がある生徒も多く、実際に地域の団体と連携して生徒主体のイベントを実践したり、継続的に様々な活動が行われるなど、本校生が地域に欠かせない存在になりつつある。また、本校の位置する宮崎県えびの市は、国内の少子高齢化が進む過疎地域と同様に多くの社会課題を抱えており、例えば、基幹産業である農業（えびの米、宮崎牛）や県内唯一の温泉郷など地域資源があるものの活かされていない。</p> <p>このように本校が置かれている環境は地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、市内唯一の県立高校である環境を活かし、3年間を見通した体系的・系統的な実践型地域課題解決学習のカリキュラムを開発し、探究活動を軸とした学びを充実させるとともに地域の団体、事業所をはじめ、大学などと連携して、その解決のモデルを考察・実践を行うことで、地域における課題意識や貢献意識を持ち、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローバル・ヒーロー育成を宮崎県えびの市から実現することができるだろう。また、本事業では教科の枠を超えた探究活動を展開し、高等学校における新たな教科学習の在り方にチャレンジしていきたい。</p> <p>現状でも探究活動で行っているグループ学習を取り入れた一部の教科では、授業時における生徒の取り組みに積極性が増すなど変容が起きていることから、学びに向かう生徒の姿勢を養う上で有為なものになると推測される。このことから、探究活動に複数の教科担当者が携わることや各教科の日常の授業においても教科横断的な学びをすすめていけば、本校の探究活動は全国のモデルケースになると考えられる。</p> <p>評価システムについては、それぞれの活動にあわせたルーブリック評価について研究していく。</p>					

<p style="text-align: center;">⑧- 2 具 体 的 内 容</p>	<p><b>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</b>        本校で行っている「えびの学」のカリキュラムを全面的に見直し、1年生（週1単位）では、えびの青年会議所やえびの市役所と連携し地域課題を共通のテーマで考え、探究の基礎を学ぶ。2年次以降は、本校の学科、コースの特性を生かし週2単位で地域をフィールドに実践を通して学ぶ地域貢献活動、地域探究活動、地域支援活動を実施する。その際、市役所、地域団体、事業所と連携して地域と協働した取り組みとする。特に、地域課題となっている若年層の減少や市外への流出に歯止めをかけようと、子育て支援や移住・定住など市が施策としているものについて、現状で取り組む生徒も多いことから市内居住を前提としたキャリアデザインを自ら作ることでできる取り組みにしていく。</p> <p><b>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</b>        校内組織である進路指導部においてカリキュラム開発における学科、コース担当を配置し原案作成、企画立案を行い、カリキュラム委員会で審議する。また、コンソーシアム（飯野高等学校魅力化の会）内に本校教員と地域人材で構成されカリキュラム開発を行う実務委員会（魅力化コアチーム）を置き、ここにカリキュラム開発等専門家および地域協働学習実施支援員を構成員として学校と地域が協働してカリキュラムを開発できるしくみを構築する。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>        学校設定科目として「えびの学」「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」を開講する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	